【学生大使 実施報告書】

学生大使　実施報告書

氏名：笹原深結
学部・学科（コース）・学年：理学部・化学コース・3 年
派遣先大学：ガジャマダ大学
派遣期間：2023.8.29～9.13

１　日本語教室での活動内容

平日の 10:00～11:30 と 13:30～15:00 に日本語教室を行った。1 人で 1～2 人を担当することが多く、授業は主に初級・中級・上級に分けることができた。

まず、初級の授業では予め用意していた 50 音表を用いて、ひらがなの読み方や書き方を教えた。読み方を教える際には口の動きが分かりやすいように意識した。特に「し」や「つ」を言いにくいと訴える学生が多かった為、発音の仕方を重点的に教えた。また、書き方を教える際にはホワイトボードに大きくお手本を書き、ノートに真似してもらう形をとった。書き順を口に出し、とめ・はね・はらいを強調して書いて教えた。その後は既習のひらがなを用いた単語を教え、読み書きの練習を進めた。ひらがなの練習ばかりでは退屈してしまうと感じた為、簡単な自己紹介や挨拶の仕方も教えた。授業終了時には「ありがとう」や「またね」などを実際に使ってくれる学生が多く嬉しかった。

中級の授業では文章の作り方を教えた。英語の 5 文型を例として日本語特有の順番を教えた。その後学生の趣味や関心について各々で文章を作ってもらい練習した。動詞や名詞など多くの単語を関連付けて紹介し、応用が利くように意識した。

上級の授業では日本語での会話の時間を多くとるようにした。日本語を話す機会があまりなく会話の練習をしたいという学生がいた為である。四季の話や日本の方言の話は新鮮だったようで話が弾んだ。その後は日本語能力試験の問題を解説したりした。「しにくい」と「しがたい」の違いの説明は難しかったが、例文や場面をいくつか例示することで理解してくれて安心した。

日本語教室に参加してくれた学生は皆とても熱心に取り組んでくれ、教える身として有難かった。

２　日本語教室以外での交流活動

平日の昼食の時間には、日本語教室で出会った学生とご飯を食べに行くことが多かった。大学内の学食はとても開放的でたくさんの店があり面白かった。メニューや食べ方についてコミュニケーションを取りながら、楽しい時間を過ごすことができた。特にお米をバナナの皮で包んで茹でた「ロントン」を使ったカレーはまろやかな味で、とても美味しかった。平日の夜は皆でロビーに集まり、南国フルーツの試食会をした。「サラク」というフルーツは、実がニンニクのような見た目をしていたが、さっぱりとした味わいで大変美味しかった。サクッとした食感がくせになり、山形でも気軽に入手出来れば良いのに、と思った。休日にはサポート役の方々に観光地や海に連れて行って頂き、たくさんの思い出を作ることができた。特にボロブドゥール遺跡は非常に壮大で美しかった。海はとても広く夕日が非常にきれいだった他、砂浜には馬車が走っており日本との違いを発見できた。

また、買い物の際にはバイクの後ろに乗せてもらうことがあった。気持ちの良い夜風を浴びながらジョグジャカルタの街並みを眺めることのできる経験は、このプログラムならではであると感じた。

更に、ガジャマダ大学農学部の新入生約 200 人が参加するプランテーション現地実習にも同行した。ジャワ島の高原を訪れ、日本では見ることのできない大規模なカカオ農園や紅茶の加工工場を見学した。日本人以外の留学生とも交流ができ貴重な体験をすることができた。

３　参加目標への達成度と努力した内容

今回参加するにあたり掲げた目標は 2 つあった。1 つ目は異文化について理解を深める事だ。初めての海外渡航であったため日本以外の国の文化を肌で体感してこようと考え、この目標を設定した。結果として異文化を知ることで自分の価値観を広げることができたと実感している。現地の学生と交流する中で宗教と日常生活がとても密接に関係しているのだという事を改めて思い知った。

2 つ目は自分から積極的にコミュニケーションをとる事だ。日本語教室では共通の趣味を持つ現地学生に自ら話しかけたり、インドネシアの文化や言葉について積極的に質問したりすることができた。私と同じ化学を専攻とするガジャマダ大生と情報交換ができたことも楽しかった。一方で、現地学生ともっと英語でテンポよく会話がしたかったと感じている。文法の正誤に囚われずできる限り話してみることを意識したが、うまく伝わらないこともあった。今後は英会話の勉強をより一層頑張ろうと思った。

４　プログラムに参加した感想

勇気を出してプログラムに参加して本当に良かったと実感している。渡航前は 2 週間無事に過ごせるかと不安でいっぱいだったが、サポート役の皆さんや先生、共に渡航した学生大使のメンバーのおかげでとても楽しく安全に過ごすことができた。個人旅行では知ることのできない、リアルに近いジョグジャカルタを体験できた。

現地に滞在した中でインドネシア人はとてもフレンドリーであり、何事にも意欲的であると感じた。日本語教室で様々な学生と交流したが、みんな私の話を親身になって聞いてくれ、終始にこやかであった。大学内を歩いている時にも、見知らぬ人が「こんにちは」と声をかけてくれたり手を振ってくれたりした。日本語教室の時間には慣れない日本語を一生懸命に学ぼうとしている姿勢が感じ取れた。また、文化交流行事で行ったカラオケ大会では、現地学生が日本の歌をたくさん歌ってくれた。この、誰にでも友好的に関わる姿勢や自発的に取り組む姿は非常に重要であり、素敵なことであると実感した。この心構えを私自身も見習い、実行していきたいと思う。

５　今回の経験を踏まえた今後の展望

2 週間という短い期間ではあったが実りの多い体験をすることができた。今回の経験から、何事もチャレンジしてみれば乗り越えられると実感した。そして、その先には新たな気付きや成長が待っていると知った。これまでの私は、心配性が原因で新たな事に挑戦するまでに大きな勇気が必要だった。しかし、このプログラムに思い切って飛び込んだ結果、意外にも楽しく非常に充実したひと時を過ごすことができた。「参加して良かった」この一言に尽きる。今後は「何とかなるさ」の精神を大切にして、日々様々なことに挑戦し続けていきたい。

ロントンを使ったスープ

きれいな夕日！

【学生大使 実施報告書】

ボロブドゥール遺跡で

日本語教室の様子